



NIPPON BEARING

5月24日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【サッカーには 手のひらサイズの ボールがある】

サッカーボールにはいくつかのサイズがありますが、おおよそのサイズは直径20cm程度です。ところが、これよりもはるかに小さなサッカーボールが存在します。リフティング練習用のボールです。なんと、手のひら程の大きさ！

公式の大会で使用されるサッカーボールは、外周68～70cm（直径にすると22cm程度）、それに対して、リフティング練習用のボールは、直径7.7cm・10.2cm・12.7cm！（現在、商品化されているもののサイズです。）

テニスボール（硬式）の直径が7cm弱、ソフトボール（公式規格）の直径が10cm程度ですから、その小ささに驚きです。

難易度の高いボールで練習することで、試合でのボールテクニックの精度を高める、そこには、技術を高めるために努力を惜しまない、練習にもこだわる選手たちの姿があります。

さて、転がりを利用したベアリングにも、ボールが登場します。

スライドブッシュというリニアシステムの中には、ボールの直径がわずか1mmのものがあります。1mmという小ささも驚きですが、精密な位置決め装置等では、少し大きなボールを使用します。ジャストサイズより一回り大きなサイズにすることで、隙間「0」から「マイナス」の状態へ。その差はわずか数 μm ！

ほんの少しの違いにより、圧力を高くしリニアシステムの剛性を高めています。

このことを、業界用語で『予圧をかける』と言います。

見逃してしまいそうな違いですが、この差へのこだわりが優れた技術を生み出しています。

この細やかな技が活かされた小型のスライドブッシュは、券売機や両替機で活躍しています。

スポーツでも機械でも、サイズの選び方にはそれぞれ理由があったのですね。

より高い技術や精度を求める「こだわり」のプロ意識が、本物という「違い」を生み出しているのかも知れません。

【企画・協力：㈱学研エデュケーショナル】